



START

事業の背景

大型貯留タンクで 低コストの液肥をつくる

生ゴミから固形の有機肥料を作る場合、脱水・乾燥させるために大量の熱源が必要だが、それには多額の費用がかかる。また、毎日ごみの量が変わるため、まとめて肥料をつくるには、保存設備が必要になるなどの課題があった。そのため有機肥料は価格も割高で、農家にとっても負担の大きい肥料だった。そこで、脱水・乾燥処理が不要で、散布しやすい液肥に切り替えることで、コストを抑え安価な肥料を提供することができるのではと考え、ものづくり補助金を活用した。



ACTION

取組の内容

協力農家とともに 施肥方法を検討

補助金を活用し、液肥を保存する貯留タンクを購入。液肥は乾燥が不要のため、熱源のコストを削減できた。また、液肥はタンク内を攪拌することで、常に一定の品質を保つことができるので、日々の生ゴミの量に左右されずに生産が可能。貯留によって、需要が重なる時期にも安定した品質の液肥が提供できるようになった。まずは、協力農家に液肥を提供し、意見を収集。それを基に、散布量や回数などの施肥方法を検討した結果、農作物の収量は前年を上回った。



ABOUT

私たちについて

地域の廃棄物を循環させ、 還元する仕組みをつくる

上越市内で発生した廃棄物を地域で循環・利用することを目標に、生ゴミや下水汚泥、廃食油などの廃棄物をバイオマス資源化する施設の運営・管理を行う。バイオマスとは、化石資源以外の生物の有機性資源のこと。生ゴミからバイオガスや電力に、下水汚泥から有機肥料やセメント原料に、廃食油は再利用できる油へと変換。再生された資源は施設内の電力や燃料に使用。また、家庭や農家、スーパー等にも販売している。循環型社会を形成し、豊かな環境づくりを目指している。



FUTURE

今後の展開

稲作農家を中心に 液肥を普及させたい

今後はさらに多くの農家さんに液肥を使ってもらいたい。液肥は田んぼなどの広範囲での散布に適している。上越市は米農家が多いので、液肥に適している土地ともいえる。課題は、液肥には散布機が必要なこと。農家に新たに散布機を購入してもらうのは負担が大きい。当組合でも貸出用の散布機

を1台保有しているが、液肥を使う時期が重なるため課題の解決にはなっていない。当組合が散布を請け負うことも含め、実現可能な対策を検討していきたい。また購入したタンクは、液肥における様々な可能性を考え、新たな挑戦もしていきたい。

廃棄物処理は、人間が口に入れたものを処理して排泄するのと同じ。自然の循環をゴミにも適用させている施設です。



専務理事
稲葉 稔氏

CASE

18

平成29年度

上越バイオマス循環事業協同組合 廃棄物から 低コストな有機肥料を生産



■ 飲料・たばこ・飼料製造業

上越バイオマス循環事業協同組合

Info

住 所 新潟県上越市頸城区下三分一 1 番地 25
TEL 025-539-1733
URL <http://www.jbc.joemate.co.jp/index.html>



会社 HP